

市民病院だより

心電図検査について

立春とはいえ、まだまだ寒い日が続く今日この頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか？

今回は、検査科より心電図検査についてのお話です。

心電図検査とは

心電図とは心臓の電気活動を体の表面から記録したものです。心臓は電気を周期的に発生させています。その電気刺激の有無によって、心臓の筋肉を収縮・拡張させているのです。心電図検査では、電気信号の状態をチェックすることで、心臓が正常に動いているか、不調はないかを把握していきます。検査にかかる時間は数分程度と、短時間で終了します。

たまに患者さんから、「ビリビリしないのですか」という質問を受けることがあるのですが、実際は心臓から発生される電気

信号を心電計（心電図を測定する機械）で拾っているだけなので、電気刺激はありません。

心電図で分かること

- ・不整脈
- ・虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）
- ・心筋炎・心筋症
- ・心房・心室肥大

心電図の種類

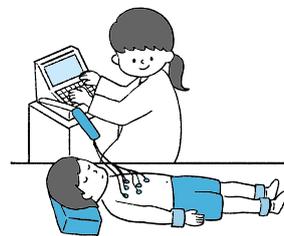
・12誘導心電図

健康診断や病院で、通常心電図検査として行われているのが12誘導心電図です。心電図の基本的な検査になります。四肢および胸部に電極を設置します。

1回の検査で12種類の波形を得ることができ、心電図の標準

波形との違いにより診断や予測をしています。12誘導心電図では、心筋梗塞や狭心症・不整脈・

心肥大などさまざまな情報を得ることが出来ます。しかし、12誘導心電図だけで、全て正確な診断ができるわけではありません。



・ホルター心電図

心臓は個人差がありますが、1日に約10万回拍動しているとされています。12誘導心電図はそのうちの数秒間の記録のため、発作的な不整脈などがこの間に起こらなければ確認できません。そのような心臓病を見つけて出すのがホルター心電図です。ホルター心電図は、24時間記録できるため、病院外でおこなう不整脈や狭心症発作の検出に大変有効です。

・運動負荷心電図

体をよく動かしているときに現れる病的な心電図波形などは、安静にしているときの12誘

導心電図では異常を認めないのが普通です。これを検出するためには、階段を上り下りしたり、電動バイクをこいだり、ランニングマシンで歩いたりなど、負荷用の測定器を用いた運動により、心臓負荷をかけながら心電図を記録するのが運動負荷心電図です。運動によって、心臓自体の血のめぐりが悪くなる労作性狭心症の診断の決め手となります。

さくしん

他にもいろいろな心電図検査がありますが、まずは基本である12誘導心電図検査を健康診断などで受けていただくことで、自分では気づかなかった心臓の病気が見つかるかもしれません。また、動悸や息切れ、胸痛などの症状がある場合は心臓病が原因である可能性があるのです、その際は病院への受診をおすすめします。

春寒の候、どうか体調にはお気をつけてお過ごしください。
(診療支援部 検査科より)

お知らせ

小児科・産婦人科・自由診療の夕方診療を行っています。
(毎週木曜日) 詳細は、市民病院ホームページや電話にてご確認ください。

【問合せ】小城市民病院 ☎73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>